

Olympic
Movement

<平成27年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

長野市立若穂中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年10月26日 (月)、27日 (火)
- 場 所 : 長野市立若穂中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (33名)、2年2組 (33名)、2年3組 (33名)、2年4組 (32名)
- オリンピアン : 荻原 健司先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・授業のポイントとして、「技を使う」「お互いに協力する」「応援し合う」ことを意識して取り組むことを約束。
- ・荻原先生の経験を基にオリンピックについて伝えていくので、今日の授業を機会にオリンピックに興味を持ってほしいと話す。

2. 準備体操 等



- ・スキップ、キャリオカステップを取り入れながら体育館をジョギング。
- ・手首・足首の回旋、体側のストレッチ、屈伸、伸脚、アキレス腱伸ばし等のストレッチを実施。



3. 主運動 等



- ・3班に分かれてそりリレーを実施。
- ・柔道着の帯のようなロープと土嚢用袋を使用したそりを用いて、1ペアが体育館の端から端までの1往復する。往路、復路で引っ張る人とそりに乗る人を交代し、6ペアがゴールする速さを競う。全2回戦を実施。
- ・最後に結果発表をし、途中で諦めない気持ち、仲間からの応援、チームワークの大切さを伝え、全員でお互いを拍手で称えた。

4. まとめ 等



- ・重要なのは勝つことではなく勝つためにどうすればいいかを考えることであり、日常生活においても目標を達成するために皆で協力して取り組むことが大切であると伝えた。
- ・座学の時間は、オリンピックについて考える時間にしたいと伝え、運動の時間を終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成27年10月26日（月）、27日（火）2時限、4時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・はじめにオリンピックについて考えてみようという授業の目的を確認。
- ・オリンピックのイメージを生徒に問うと競技名や選手名、「五輪」等の回答が挙げられたため、オリンピックには競技や選手以外にも大切なものがあると話す。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピックシンボルの意味や、開催年等、オリンピックにまつわるクイズを出題。
- ・荻原先生が出場した長野大会の写真を見せながら、当時のエピソードを紹介。



2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・クーベルタンの肖像画を見せながら、近代オリンピックの復興について説明。
- ・「エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト」という3つのオリンピックバリューについて説明し、運動の時間に実践した「全力で取り組むこと、チームワーク、フェアプレー」もバリューに当てはまると説明。

3. まとめ 等



- ・オリンピックとは競技する人・サポートする人・応援する人すべてが参加者であり、オリンピズムを世界に伝えるために行われるスポーツ大会であると説明。
- ・自分が成長するためには自分の弱点を克服するための練習が必要であり、失敗を恐れて一步を踏み出さないのでなく、失敗も経験してほしい。自分の夢や目標を叶えられるか否かは自分次第であり、実現に向けて諦めずがんばろうと生徒に伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

